

「梅雨の時期に関する沖縄地方気象情報 第1号」の解説

1 梅雨入りの発表

沖縄地方は、前線の影響でおおむね曇りや雨となっています。

5月18日発表の週間天気予報では、向こう一週間も、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなる見込みです。このため、沖縄地方は5月18日ごろに梅雨入りしたと見られ、沖縄気象台は5月18日11時00分に「梅雨の時期に関する沖縄地方気象情報 第1号」を発表しました。

2 今年の「梅雨入り」は5月18日ごろ(階級:「遅い」)

沖縄地方の今年の梅雨入りは平年の5月10日ごろより8日遅く、昨年(2022年)の5月4日ごろより14日遅くなりました。

沖縄地方で過去、最も早い梅雨入りは1980年の4月20日ごろで、最も遅い梅雨入りは1963年の6月4日ごろとなっています(※梅雨の統計開始年は1951年です)。

【参考】

梅雨入りの時期の階級(沖縄地方)

かなり早い	早い	平年並	遅い	かなり遅い
～4月30日ごろ	5月1日ごろ～ 5月5日ごろ	5月6日ごろ～ 5月14日ごろ 平年:5月10日ごろ	5月15日ごろ～ 5月19日ごろ	5月20日ごろ～

注1. 梅雨は季節現象であり、その入り明けには、平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。

注2. 「平年」は、2020年(令和2年)までの過去30年の平均の日付です。

3 今年の梅雨の時期の天候と降水量(季節予報)

5月11日発表の1か月予報では、5月13日から6月12日までの天候は、「平年と同様に曇りや雨の日が多い」と予想しています。降水量は「多い」の確率が40%、「平年並」・「少ない」の確率はともに30%、日照時間は「少ない」の確率は40%、「平年並」・「多い」の確率はともに30%です。

沖縄地方 (1か月予報)	降水量	少ない 30%	平年並 30%	多い 40%
	日照時間	少ない 40%	平年並 30%	多い 30%

※次の1か月予報は5月18日14時30分に発表する予定です。最新の予報をご確認ください。

また、4月25日発表の3か月予報では、6月の降水量は、「平年並」の確率が40%、「多い」・「少ない」の確率はともに30%となっています。

沖縄地方 (3か月予報)	6月 降水量	少ない 30%	平年並 40%	多い 30%
-----------------	-----------	---------	---------	--------

沖縄地方の「梅雨の時期における各地の降水量の平年値と極値」は次表のとおりです。

梅雨の時期における各地の降水量の平年値と極値(単位:ミリ)

地点名	5月の 月降水量 平年値	6月の 月降水量 平年値	梅雨の時期(5～6月)の降水量		
			平年値	最大値(年)	最小値(年)
那覇	245.3	284.4	529.7	1129.0(1969年)	56.0(1991年)
名護	220.1	291.7	511.8	1445.5(1969年)	84.0(1991年)
久米島	260.3	307.4	567.7	1113.5(1969年)	192.5(1991年)
南大東島	222.0	199.6	421.6	1191.0(1969年)	91.0(1991年)
宮古島	222.3	194.7	417.0	1059.0(2022年)	29.5(1971年)
石垣島	190.7	208.2	398.9	987.0(2020年)	67.5(1971年)
西表島	175.6	186.3	361.9	795.0(1998年)	85.5(1971年)
与那国島	207.3	162.3	369.6	897.4(1957年)	85.0(2002年)

注1. 梅雨の時期の降水量の統計開始年は、那覇・南大東島・宮古島・石垣島は1951年、名護は1967年、久米島は1959年、西表島は1954年、与那国島は1957年となっています。

4 梅雨明け

「梅雨明け」は、梅雨前線が沖縄地方から遠ざかって、太平洋高気圧に覆われるようになり、曇りや雨の日が減って、晴れて日照時間が多くなる時期を総合的に判断して決定します。

沖縄地方における梅雨明けの平年は6月21日ごろです。昨年(2022年)の梅雨明けは6月20日ごろでした。

沖縄地方で過去、最も早い梅雨明けは2015年の6月8日ごろで、最も遅い梅雨明けは2019年の7月10日ごろとなっています。

【参考】

梅雨明けの時期の階級(沖縄地方)

かなり早い	早い	平年並	遅い	かなり遅い
～6月10日ごろ	6月11日ごろ～ 6月20日ごろ	6月21日ごろ～ 6月23日ごろ 平年:6月21日ごろ	6月24日ごろ～ 6月29日ごろ	6月30日ごろ～

注. 「平年」は、2020年(令和2年)までの過去30年の平均の日付です。

5 梅雨前線の特徴

本州付近の梅雨前線は、オホーツク海高気圧がもたらす北東からの冷たく湿った空気と太平洋高気圧がもたらす南からの暖かく湿った空気の境目付近に発生します。

沖縄付近の梅雨前線は、本州付近の梅雨前線とは異なり、乾いた空気からなる移動性高気圧と暖かく湿った空気からなる太平洋高気圧の境目付近に発生します。梅雨前線の動向は、太平洋高気圧の勢力により左右され、太平洋高気圧の勢力が強い場合は沖縄地方の北側に、弱い場合は南側に位置します。

沖縄では梅雨の時期が二十四節気の「小満」と「芒種」の時期にあたることから、梅雨の時期を「スーマン(小満)ボース(芒種)」とも呼んでいます。

6 梅雨の時期の大雨災害

梅雨前線に暖かく湿った空気が大量に流入すると、梅雨前線付近の対流活動が活発となって大雨が降りやすくなります。大雨の降りやすい条件として、①梅雨前線に向かって太平洋高気圧がもたらす南からの暖かく湿った空気が大量に流入する場合、②梅雨前線に台風が接近する場合、③梅雨前線上に低気圧が発生する場合などがあります。

梅雨の時期には大雨による災害の発生が多く見られます。2022年(令和4年)には長雨・日照不足が顕著となり、大雨時には土砂災害や床上・床下浸水などが多数発生しました。2006年(平成18年)には大雨と長雨の影響が重なって中城村や那覇市で大規模な土砂災害が発生しています。